

- ① 小熊英二『〈民主〉と〈愛国〉』（新曜社、6300円）
- ② ドナルド・キーン『明治天皇』（新潮社、上下各3200円）
- ③ 村松岐夫、奥野正寛編『平成バブルの研究』（東洋経済新報社、上下各4200円）

①は気鋭の若手研究者の意欲がほとばしる戦後思想史の力作。丸山真男、大塚久雄、吉本隆明、江藤淳らの思想をたどり、「我々はどこにいるのか」を問い直す。②は極東の小国を近代国家に押し上げた指導者の実像を、日本研究の第一人者が書き切った大作。日本の歴史を相対化し得る独自の視点が印象的だ。③はバブルの生成と崩壊を政治・経済学者20人が実証分析した書。政策の失敗の歴史を丹念に追い、日本経済の「敗北」を総括した。